

中国から距離を置き始めたドイツ

◆独政府、人権侵害問題からVWの中国での投資保証を拒否か

フォルクスワーゲン（VW）の中国での新規投資に対する[投資保証](#)申請をドイツ政府が却下したと、2022年5月27日に報じられた。新疆ウイグル自治区の人権侵害に関する「新疆公安ファイル」が24日に報道されたことが背景にある。VWは、上海汽車と合弁で13年から同区のウルムチで工場を操業しており、同工場での強制労働はないとしているが、保証がなければ財務リスクを自ら負うことになる。

ドイツはこれまで、メルケル前首相が頻繁に訪中するなど、ドイツ企業の中国進出や中国との連携を進めてきたが、ここへきて風向きが変わってきた。

◆ロシアのウクライナ侵攻と中国の事実上のロックダウンも危機感を引き起こす

ドイツが中国と距離を置き始めた理由には、人権侵害のほか、ロシアのウクライナ侵攻により、一国に偏重した貿易関係の危険性が再認識されたこと、新型コロナによるロックダウンがある。物流混乱などから企業の[投資意欲](#)も減退した。

欧州の大規模[調査](#)（5月発表）から、自動運転車、ロボット、AIの開発などの基礎研究は、軍事目的に転用される可能性が高く、欧州の大学や研究者が中国の大学や研究者と協力することへの懸念も報じられている。しかし特定国の排除は、[基本法](#)（憲法）で「科学と研究と教育は自由」と定めるドイツでは難題だ。

◆グローバルゼーションから信頼国間の「フレンド・ショアリング」へ傾斜か

イエレン米財務長官は4月に、新時代の国家間の経済協力のビジョンとして、経済効率と労働者保護を伴うサプライチェーンが信頼できる国で構成される「フレンド・ショアリング（friend-shoring）」を提唱した。NATOのストルテンベルグ事務局長もダボス会議で「自由は自由貿易よりも重要だ」と述べている。

ドイツメディアも「[グローバルゼーションの終焉](#)」というタイトルで、新語のFriendshoringを紹介し、ロシアや中国など、政治的関係が緊張している国で事業制限することに言及している。中国からの撤退には至らないまでも、信頼関係が築ける国とのサプライチェーンの再構築に拍車がかかりそうだ。【赤山英子】